

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

北海道で出会ったリフォーム

中古マンション価格天気図という記事が目にとまった。日本地図の中に晴れマークや雨マークが都道府県ごとに図式化されていた。東京、大阪は雨マーク。その他も曇りマークがほとんどで、北海道はというと雨となっていた。中古住宅を買ってリフォームすることがこれからのテーマだと思っ

ンバージョンしてもらった。既存住宅の流通シェアも建物の滅失年数も、日本とは全く違うカナダの大工さんだからこそ、建物をリフォームする価値が理解できたのかも知れない。

板張り部分のある赤い外壁と緑の入り口が、北海道の新緑によく映えていた。隣が牛舎のこのカフェには、一歩入るとウェスタンスタイルの馬の鞍が置いてあった。その革張りの立派な彫り物付に見せられながら、私は道東から大都会東京に帰ってきた。

先日、北海道で出会った女性の言葉思い出した。「リフォームしてくれる大工さんが見つかりませんでした」。

板張りの部分がある赤い外壁と緑の入り口が、北海道の新緑によく映えていた。

前述の女性が、東京から来た私が大変気に入った様子に、「都会から来た方のほうが、良さを感じてくれることが多いです」と言っていた。次々と新しいものが建ち並ぶ都会に暮らす人たちの心を、和ませてくれるものがここにあるようだ。

彼女は「北海道の中で道東が一番美しい！」と二〇代の時から北海道に通いつめ、とうとう馬を飼いながら、カフェも経営することになった。そこで昭和三十一年に建てられた酪農家の家を改装しようとしたのだが、改装してくれる大工さんがいなかったという。



広大な土地の中では古い家は廃屋にして、新しい家を建てるのがあたりまえという土地柄なのだろう。そこでカナダから移住してきた大工さんに、カフェにコ

ンバージョンしてもらった。既存住宅の流通シェアも建物の滅失年数も、日本とは全く違うカナダの大工さんだからこそ、建物をリフォームする価値が理解できたのかも知れない。

隣が牛舎のこのカフェには、一歩入るとウェスタンスタイルの馬の鞍が置いてあった。その革張りの立派な彫り物付に見せられながら、私は道東から大都会東京に帰ってきた。

(写真撮影・西田所長)

大工さんに、カフェにコ

ンバージョンしてもらった。既存住宅の流通シェアも建物の滅失年数も、日本とは全く違うカナダの大工さんだからこそ、建物をリフォームする価値が理解できたのかも知れない。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。